

研究速報

向があるが多少バラツキは大きいことが認められる。

一方、鉄筋の発錆面積率とポロシチーの関係については、今回行った鉄筋の発錆実験に用いた供試体のポロシチーを測定しなかったので直接検討することはできない。しかし、配合等は全く同じで養生条件が比較的近い水中養生の場合と同じようなポロシチーになっていると考え水中養生したコンクリートの T. P. V. と平均発錆面積率との関係を示したものが図-6である。上記の理由からこの図のみから判断を下すことはできないが、普通ポルトランドセメントが2 wt%の場合には T. P. V. が小さくても発錆量が大きく、10 wt%以上では T. P. V. が小さいほど発錆量が小さくなるものと推定される。この結果は鉄筋の腐食を支配するコンクリート側の要因のうち、PH と permeability の2つの主要因のいずれが卓越するかによって説明することができると思われる。なお、この点に関しては材令52週の場合にさらに検討する予定である。

4. あとがき

スラグ・セッコウ系結合材を鉄筋コンクリートとして使用する場合の重要な性質の一つとして考えられる鉄筋の発錆について検討を行った結果、普通ポルトランドセメントに比べ発錆しやすいこと、その対策として防錆材

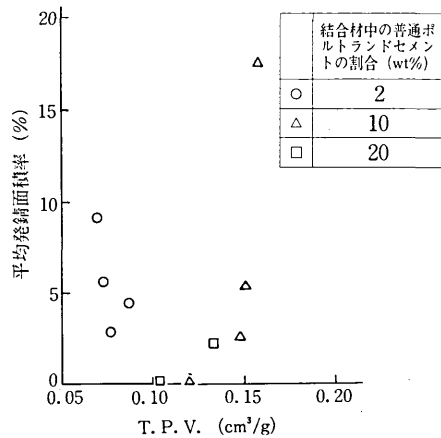


図-6 スラグ・セッコウ系結合材コンクリートの空隙量と平均発錆面積率 (防錆剤無添加)

を添加すれば良いこと等が明らかになった。今後は、コンクリートの強度の改善、耐久性について検討する予定である。  
(1979年4月16日受理)

参考文献

- 1) 小林, 武若 : 生産研究 Vol.30, No.6, 1978. 6.
- 2) 魚本, 小林, 星野 : 生産研究 Vol. 31, No.6, 1979. 6.

正誤表 (6月号)

頁	段	行	種別	正	誤
526	左	↓2	本文	広報車	広報紙
530	左	↑1	本文	訪問	訪門
534	上		図2のタイトル.	(文献5から引用).	(文献6から引用).
536	右	↓8	本文	を載いた.	を載いた.
548	左	↓23	本文	圧下率比 $r^* = r/r_{max}$ .	圧下率比 $r^*/r_{max}$ .